

高石市教育委員会定例会会議録

(平成 28 年 10 月定例会)

開会及び閉会の年月日時

開 会	平成 28 年 10 月 12 日午後 3 時 22 分
閉 会	平成 28 年 10 月 12 日午後 4 時 14 分

会議に出席した者の職及び氏名

委 員	委 員 長 : 佐 野 慶 子 委員長職務代理者 : 西 中 隆 委 員 : 西 村 陽 子 委 員 : 吉 村 文 一 教 育 長 : 藤 原 一 広
事務局職員	教 育 部 長 : 木 寄 茂 巳 教育部理事兼次長 : 細 越 浩 嗣 教育部次長兼社会教育課長 : 上 田 庸 雄 教育部次長兼こども家庭課長 : 池 治 久 美 子 教 育 総 務 課 長 : 西 川 浩 二 学 校 教 育 課 長 : 吉 田 種 司 学校教育課長代理兼人権教育推進室長 : 清 水 寛 之 子 育 て 支 援 課 長 : 神 志 那 隆 社会教育課長代理兼中央公民館館長 : 石 田 俊 彦 社会教育課長代理兼たかいし市民文化館館長 : 田 中 正 博 教育総務課長代理兼総務管理係長 : 山 本 敬 司 教 育 総 務 課 主 事 : 安 岡 佑 美

議題及び議事の要旨及び議決事項

- ・ 議案第 1 号 高石市立幼稚園再編等検討委員会設置規則を廃止する規則の制定
について

教育総務課長	本議案は、平成28年5月教育委員会定例会において高石市立幼稚園再編等検討委員会設置規則に基づき設置した高石市立幼稚園再編等検討委員会が、その担当事務を終えたため、平成28年第3回市議会定例会において高石市附属機関条例の一部を改正する条例制定が議決されたことにより、教育委員会の附属機関から削除されたので、高石市立幼稚園再編等検討委員会の組織及び運営について定めた同規則を廃止するものである。 なお、施行期日は公布の日とする。
採決	可決。

- ・ 議案第 2 号 高石市教育委員会表彰について

教育総務課長	本議案は、高石市教育委員会表彰規則第3条第3号及び第4条第3号の規定に基づき、本市に所在する学校の児童・生徒または団体もしくは在住・在勤者または本市に所在する団体で、教育委員会が表彰に値すると認める成績のあった者を教育委員会が表彰状を授与し、表彰するものである。 高石市教育委員会表彰規則第7条に基づき、先ほど開催された表彰審
--------	--

	<p>査会において承認された別紙候補者について、同規則第3条第3号及び第4条第3号の規定に基づき、教育委員会表彰の被表彰者とするものである。候補者は22件、その内訳として個人が17名、団体が5団体、分野別では、スポーツ分野が19件、文化分野が3件となっている。</p>
西中委員長職務 代理者	<p>被表彰者が年々増加しているが、何か原因があるのか。また、スポーツ関係では優勝または準優勝ということになっているが、大会のスケールからいうと全国大会、近畿大会、府の大会という順であり一般的には全国大会の方が難易度が高く、例えば全国大会で3位等、そういうものが全国で活躍したとしても準優勝しなかったら表彰しないのか。</p> <p>また、表彰される方は、本人申請なのか。文化分野が非常に少なく、どのようにして候補に挙がってきているのか、</p>
教育総務課長	<p>被表彰者の増加については、表彰規則、また表彰取り扱い基準に基づき文化、スポーツ基金の補助金の申請などの形で対象になる方の確認をし、被表彰者としている。</p> <p>また、スポーツ関係の現在の取り扱い基準としては該当する項目として4つあり、1. 日本代表として国際大会に出場した場合、2. 全国大会における優勝または準優勝、3. 近畿大会において優勝または準優勝、4. 大阪府大会において優勝または準優勝ということで、優勝または準優勝という基準である。基準については今後適当な基準というものについて検討していきたいと考えている。</p> <p>文化分野については、22件中3件ということで候補が少ないが、こちらも基準に沿って取り扱いしており、基準について今後検討したいと考えている。</p>
西中委員長職務 代理者	<p>補助金の申請があった者のみが表彰の対象になるのか。</p>
教育総務課長	<p>現状にいては、補助金申請があった中から基準に該当するものを表彰としている。</p>
西中委員長職務 代理者	<p>補助金について、総額はあるのか、申請があれば基準を満たしていれば全て承認するのか。</p> <p>また、補助金の申請以外で様々な大会で優秀な成績を修める者どのように拾っているのか。</p>
社会教育課長	<p>文化スポーツ国際交流振興基金については、毎年度基金を100万円取り崩している。その100万円で一定の申請に対する基準額を設けているが、例年申請者数が50件程度あり、予算内に収めるため最終的には金額を按分して助成を行っている。</p> <p>助成制度については、本市のホームページに助成制度について掲載し市民には周知を行っている。</p> <p>現在、表彰については申請のあった個人や団体からの提出書類に基づき担当課から表彰の推薦状を出している。一般的に助成がない場合、今後何らかの形で、例えば学校やホームページ、文化協会や体育協会等、そのような関係する団体に表彰について周知する必要があると考えている。</p>
西中委員長職務 代理者	<p>現在の総額が100万円であり、申請が増加してきたら1件当たりの補助金は減少するという事か。</p>
社会教育課長	<p>予算枠内で行うのが基本であるので申請者が増加すれば、現在個人で全国大会に出場した場合3万円の助成があるが、按分し2万数千円や1万数千円になることがある。</p>
西中委員長職務 代理者	<p>申請者が増えると助成が少なくなり補助金の意味が無くなるのでは。</p>
社会教育課長	<p>例年50件くらいあり、仮にこれが100件となった場合については、例</p>

	<p>えば基金を崩す予算を増やす等、対応は必要になってくると考えている。</p> <p>あわせて、この助成制度というのはもともと文化スポーツ基金の利息の部分で助成制度を行っていたが、最近では金利が下がり基金に対する利息部分が少なくなったため、基金を取り崩して充当している。そのため、仮に助成制度の枠までいった場合には基金がどんどん減っていくということにもなるため、その基金を増やす対策として一昨年从高師浜運動場の駐車場を有料化し、収入部分を基金に戻すという資金の確保を行っている。</p>
西中委員長職務 代理者	<p>申請者が増えると貰える補助金が少なくなるという、いわゆる反比例した形になるため、基金を増やしてもらえようような努力もお願いしたい。</p>
採決	<p>可決。</p>

・議案第3号 平成28年度全国学力・学習状況調査結果公表について

学校教育課長	<p>今年4月に実施した全国学力・学習状況調査についての本市の小・中学校の学力調査の結果公表についてである。本市小・中学校における各教科の学力に関する分析部分と、質問紙調査の結果概要として質問紙調査の分析から学習状況に関する部分、その両方の分析から見えてきた課題と、それに対する高石教育委員会及び学校の取り組み等について公表したい。</p> <p>学力調査は、小学校6年生では国語、算数、中学校3年生では国語、数学が実施された。各教科、A問題は主として知識に関する問題、B問題は主として活用に関する問題が出題された。</p> <p>質問紙調査は、小学校6年生と中学校3年生の児童・生徒の学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する内容について、それぞれ計85問の質問が出されており、結果概要については、この後、課長代理清水より説明をする。</p>
学校教育課長代理	<p>平成28年度全国学力・学習状況調査の結果について報告する。</p> <p>結果については平成28年4月19日に市内公立小・中学校の小学校6年生と中学校3年生で実施した調査の結果を高石市全体で集約し、まとめたものである。</p> <p>学力調査の結果概要、平成28年度本市の校種・教科・区分別正答率については小学校、中学校ともに全国、大阪府平均を各教科で下回る結果となった。特に小・中学校ともに国語B区分において全国との差が大きくなっており、課題が見られる結果となっている。</p> <p>次に、校種、教科ごとに説明をする。</p> <p>初めに、小学校国語についての結果概要についてである。小学校国語A区分の傾向については、基礎基本の定着に課題があり、特に漢字の読み方、書き方を問う問題において正答率が低く、基礎的な漢字を読み書きする力に課題が見られた。また、国語B区分の傾向については、自分の考えを書く問題の正答率において全国との差が大きく、問題の意図に応じて文章を表現する力に特に課題があった。</p> <p>次に、小学校算数についてである。</p> <p>A区分については、数と計算の知識理解を問う問題で、正答率が全国より高いものもあったが、全体的には基礎基本の定着に課題があり、特に問題を適切に読み取り処理する力に課題が見られた。また、B区分については0問から5問正答した児童の割合が全国より多くなっており、活</p>

用力の底上げが課題として挙げられる。また、記述式問題の無答率が高く、特に示された事象を数学的に筋道立てて考え表現する力に課題があった。

次に、中学校国語についてである。

A区分については、基礎基本の定着に課題があり、特に伝えたい事柄を相手に効果的に伝わるように書く力に課題が見られた。また、B区分については、根拠を明確にし自分の考えを文章で表現する問題の正答率において全国との差が大きく、自分の考えを具体的に書く力に課題があった。

次に、中学校数学についてである。

A区分については、基礎基本の定着に課題があり、特に文字を用いて数量の関係や法則などを式に表現したり式の意味を読みとったりする力に課題が見られた。また、B区分については、無答率の数値が高くなっており、特に資料を適切に読みとり理由を説明する問題の正答率において全国との差が大きく、数学的な表現を用いて説明する力に課題があった。

次に、質問紙調査の結果概要についてである。

今年度の調査でも教科に関する調査と同様に、学校生活や授業、生活習慣などに関する質問紙調査が実施され、高石市の子供たちの学習状況、生活習慣の特徴や課題が見られるところをまとめて報告する。

⑥の学校に行くのが楽しいという項目では、小・中学校ともに全国を上回る結果となっている。①の朝食を毎日食べているという項目では、小学校において昨年度より改善が見られた。今後も家庭向けのリーフレット等で啓発をしていきたいと考えている。⑧の読書が好きという項目では全国との差が大きく開いている。この課題については、今年度より小・中学校に学校司書が配置されたことにより、より一層読書活動の充実に向けた取り組みを進めていきたいと考えている。

次に、「調査結果から」についてである。

これらは教科に関する調査、質問紙調査、全体をまとめて分析・考察したものである。

学力面においては、特に自分の考えを書いたり説明する力、生活面においては携帯電話やスマートフォンの時間、家庭学習の時間など家庭での時間の使い方に特に課題が見られた。これらの課題に対する取り組みについては最後に報告する。

次に高石市教育委員会及び学校の取り組みについてである。

現在、各学校では、自校の学力・学習状況調査の結果を分析し、学力向上大作戦、プランニングシートに沿った取り組みの検証、見直しを行い、子供たちの学力向上を目指した取り組みを進めている。

その際、教育委員会からは大阪の事業スタンダードに基づいた事業改善を図り、子供たちが主体的、意欲的に活動できる授業づくりを推進するため、指導主事による示範授業の実施や指導助言等、継続的に学校を支援している。また、今年度より全校に配置されている学校司書、ICT機器等を活用し子供たちが主体的、意欲的に活動できる授業づくりをさらに推進していけるよう学校を支援していく。その他にも、様々な取り組みを実施し、調査結果の課題解決、学力向上を目指していきたいと考えている。

今後も学力向上に関する方策とともに、子供たちに生きる力の育成を目指して、各家庭にも協力貰いながら、教育委員会としても取り組んでいきたいと考えている。

西中委員長職務

全般的に大阪府や全国の平均よりも低いということだが、まとめのグ

<p>代理者</p>	<p>ラフ等を見たときに、上位群が頑張っているが、下位群に位置づけられる子供たちが全国または府に比べて多いという印象がある。このような学力に遅れがちになる児童への手当をしなければ平均化された学力の実態は上がらないというのが一般的である。秋田県にしても福井県にしてもそのような取り組みを総がかりでやっている印象であるが、今後どのようにしていくかを聞きたい。</p> <p>併せて、国語のB区分が非常に小・中とも低いが、B区分というのはある程度物事を考えて作文する等、ただ単に漢字を覚えたり文章を読んだりするのではなく、文字を通して考える、そういう力がないと問題の解答が難しいが今後どうしていくのか、また、算数、数学について、特に中学校の文字式が非常に悪いということで、結局、算数までは理解できるが数学になったら理解できないという、いわゆる中学校に入って文字式が出てきたらからその辺でつまずいてしまう生徒が必ず出てくるわけで、そのような子供に対して今後、どのように対応しているのか。</p> <p>最後に、福井や秋田は家庭と一体となった総がかりで、現在の全国1位、2位になっている。それと合わせて教育委員会も含めて必死にやっている、ある程度家庭にも教育への学習習慣の強化をしていくかというようなことも考えていただけたらと思う。</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>西中委員の指摘通りであるが、上位層頑張っている部分もあり、下位層については、我々も課題だと考えている。また、無答率の高さも全国に比べて高いという状況が見られる。これらについては、校長会、また学力向上担当者会を開き、この課題について取り組みを指示したところである。</p> <p>補助学習、居残り学習というのは昨今難しい状況であるが、工夫しながら、子供たちがその日学習したことを理解してから家に帰れるようになればと考えている。</p> <p>また、国語のB問題の課題についてであるが、やはり読書量が課題になってくると考えている。これについて、今年度から学校図書館司書を各校、1校に1人配置している。読書の量または質を高めていくという取り組みを今後考えていきたいと考えている。また、家庭学習について、家庭での学習の手引きを各保護者に配布し、家庭の協力をもらいながら学力の向上に向けて取り組んでいきたいと考えている。</p>
<p>西村委員</p>	<p>やはり特にB問題等初めて取り組むと、問題自体に戸惑うというか、諦めてしまうところもあると思う。決してテストの順位や数字を上げるためだけという意味ではなく、思考力を身につけるという意味で、様々なB問題的なものを、普段から接する機会を増やすことも考えたかどうか。</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>過去の問題の一例挙げると、小学校のテストでは通常1枚物に書き込んでいくという形の形態が多い。それが全国学力・学習状況調査については、1ページずつめくり、違う解答用紙に記入するということが、子供たちにとっては経験したことがないケースが考えられる。これがないようにということで、今年度についても事前に、同様の開いて解いていくような問題に対応できるよう、過去の問題についても実施してはということで、各校長については指導してきた。</p> <p>ただ、過去において授業時間でなかなか取組できていないということがあり、配布だけで終わっているということもあったため、点数変化が大きかった学校を、私と担当者で回り、昨年度と今年度の取り組みの違いがないのか確認してきたが、特に大きな差異はなかった。現状では過去の問題等の経験が少ないように感じる。この問題については今後、改善に向けて取り組んでいきたいと考えている。</p>

西中委員長職務 代理者	指導力向上の為に、教育先進県の秋田県や福井県のノウハウ等を勉強してもらったら、役に立つと思う。
採決	可決。

・報告第1号 教育委員会の後援等に関する報告について

各課長	後援承認したものについて説明。
佐野委員長	承認する。

・報告第2号 教育委員会関係諸行事等の報告について

各課長	平成28年9月7日から平成28年10月11日までの行事について説明。
各委員	質問なし。
佐野委員長	承認する。

その他委員長が必要と認めた事項

各委員	意見なし。
佐野委員長	これで閉会とする。